

第1回栗原圏域宿泊事業者部会

【日時】令和8年6月4日（木）午後2時から午後3時15分まで

【場所】栗原合同庁舎3階第一会議室（西）

【委員からの主な意見】

1. 令和8年度宿泊税充当事業について

- ・自社が宮城県教育委員会の「みやぎ教育応援団」に加入しており、職場体験の受入実績がある。将来の雇用確保には、小中高生へのアプローチも有効ではないかと思う。
- ・補助事業は、誰がどのように実行するかが重要だと思う。宿泊事業者は人手不足もあり、運営主体までは担いにくい。観光協会やDMO的組織、継続的に事業を回す中核的事務局や人材が必要である。
- ・観光ガイド機能強化事業についても、育成したガイドたちはどこで働き、誰が活用するのか。育成後のガイドを受け入れる団体や仕組みの整備が必要である。特に地方部においては橋渡し役が確立していないため、新たな体制作りにも宿泊税を使えるようにしていただきたいと思う。
- ・ここ二・三年で、韓国からの来訪者に栗駒山の紅葉等を楽しんでいただいたが、Googleマップにバス路線が出ないなど、インバウンド客の受け入れるにあたって、課題がある。
- ・以前、栗原市ではレンタカー補助の制度があり、好評だった。県境地域にあるので、レンタカーやタクシーの需要が大きいことから、タクシー会社との連携を含め、持続可能なシステムづくりを行っていただきたい。
- ・ALT等が週末にガイドとして参加する事例を踏まえて、そうした人材を紹介し、インバウンドの来訪者が選択できる仕組みが有効ではないかと思う。

2. 栗原圏域における観光振興施策について

- ・酒フェスについて、くりこま高原駅周辺のイベントが遠方に点在する宿泊施設の宿泊につながるか、疑問に思う。宿泊事業者側の意見を再度聞き、宿泊にも恩恵があると実感できるイベントにしてほしい。特に、花山・栗駒方面など地域で観光に取り組む宿泊事業者にも恩恵がある設計にしていきたい。
- ・酒フェスには実証実験として実施する意義がある。10年、15年後には栗原名物になってほしい。昼から実施すれば市民バスで花山方面へ誘導でき、市民バス利用促進にもつながる可能性があると思う。
- ・酒フェスの持続には、開催を中核的に担う人材や組織が重要で、観光振興全体につながる仕組みづくりが必要だと思う。
- ・栗原は広いため、旅行商品の企画・販売・運営については、くりこま高原駅周辺、伊豆沼・内沼周辺、栗駒山方面などに分けて考える必要があると思う。市街地周辺はビジネスホテルを利用していただくとして、花山・栗駒方面は別の組み方が必要となる。持続可能な事業となるようにしてほしい。

3. その他

- ・県内の他圏域の優れた取組から学ぶ機会や、同じ課題を持つ事業者との意見交換の機会があると良いと思う。特に気仙沼・南三陸と連携がしたい。私たちは岩手・宮城内陸地震からの復興を経験

し、沿岸部の方々は東日本大震災から復興された。その間をつなぐ県北道路による横軸連携を踏まえたツアーや研修、交流が、くりこま高原駅や県北道路の利活用にも有効だと思う。